

自己評価

学校教育目標	「明るく 元気に 生き生きと」 ・児童生徒一人一人の実態に応じた「生きる力」を育み、自立と社会参加を目指す。
--------	---

【教務部】

評価する領域・分野	教務部 「教育活動・学習活動・情報管理」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務支援システムによる個別の指導計画が、今年度から県内統一様式での運用開始となるため、昨年度作成したマニュアルの修正が必要である。また、操作方法のみでなく合わせた指導については、教科を意識した指導計画であることを再度周知する必要がある。</li> <li>・令和8年度から、高等学校教科書が改訂される。</li> <li>・分掌組織の再編により、情報機器の運用（校務系）については、教務部の業務に位置付けられた。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個別の指導計画の目標の立て方や評価方法など、新たな説明資料（留意事項等）を作成する。また、教科等を合わせた指導に含まれる教科について見直す。</li> <li>2 高等学校教科書改訂に伴う新規採択、また、一般図書や指導書、補助教材などに関わる見直しや手続きを計画的に進める。</li> <li>3 情報機器の管理や個人情報の取り扱い、著作権について、定期的に注意喚起と研修を行う。</li> </ol>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習グループや部会の意見集約。教育課程検討委員会や主事会、教務部会での情報共有や協議。</li> <li>2 学習グループや部会での課題集約や問題提起。教務部内の情報共有と業務スケジュール調整。教科書選定委員会や補助教材検討委員会での審議。</li> <li>3 情報セキュリティ取扱い管理者（教頭）、学習支援部（ICT推進担当）との連携。</li> </ol>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ・教務部を中心としたシステム管理と操作や作成に関する調整案内を行う。 ・現状課題や部の意見を集約し、校内委員会での情報共有や協議が円滑に進むよう調整をする。</li> <li>2 ・教科書選定委員会までに、部やグループでの検討、教科書閲覧に係る依頼やスケジュール調整、選定資料作成等を公正且つ計画的に進める。</li> <li>3 ・ICT機器や個人情報の取り扱いについては、定期的に職員全員に注意喚起をする。</li> </ol>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校務支援システムによる個別の指導計画作成が滞りなくできるように案内できたか。また、各部において、教育課程に関する現状の課題を協議し、見直すことができたか。</li> <li>2 教科書や補助教材等に係る手続きや業務を進め、令和8年度の指導環境を整えることができたか。</li> <li>3 学習支援部（ICT推進担当）と連携し、情報機器や個人情報の取り扱い等、適正に運用できたか。</li> </ol>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務支援システムによる個別の指導計画作成のマニュアルを修正し、各担当が作成しやすいようにできた。</li> <li>・令和8年度実施に向けて、高等部A類型、B類型の単位数、単位取得学年、学校設定科目等について、部会や教育課程検討委員会等で協議し見直すことができた。</li> <li>・令和9年度以降に運用するためのC類型の教育課程について見直すことができた。（C1類型とC2類型の特徴をより明確にした。）</li> <li>・各部の担当者を中心に優先順位を考え、限られた予算の中で指導書の購入計画</li> </ul>

	<p>を立てることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務用PCの故障（過失ではない）が数件あったが、業者や県教委と連絡を取り適切に対処できた。</li> <li>・職員用タブレットを迅速に運用できた。</li> </ul>
評価の視点	評価
1 システムによる個別の指導計画作成のマニュアルを修正し、各担任が作成しやすいようにできたか。また、各部において、教育課程に関する現状の課題を協議し、見直すことができたか。	A <b>B</b> C D
2 教科書や補助教材、教師用の指導書等に係る手続きや業務を進め、令和8年度の指導環境を整えることができたか。	A <b>B</b> C D
3 学習支援部との業務分担を明確にしつつ、必要に応じて連携し、情報機器や個人情報の取り扱い等、適正に運用できたか。	A <b>B</b> C D
成果・課題	総合評価
<p>○集団による自立活動の活動時間について、全学部の状況を把握して見直しを行い、活動時間を十分に確保できるように改善した。</p> <p>○高等部C類型の教育課程について、授業時数等を見直し、C1類型とC2類型の特徴をより明確にした。令和9年度からの運用に向けて準備ができた。</p> <p>○情報セキュリティについての職員研修を行った。情報セキュリティ事故を起こすことなく業務を遂行できた。</p> <p>○職員用タブレットを迅速に運用できた。</p> <p>▲システムについて、操作方法はどの教員も慣れてきている。今後は合わせた指導について、教科を意識した指導計画（目標、評価）となっているか再度周知する必要がある。</p>	A <b>B</b> C D
来年度に向けての改善方策案	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度見直しを行った高等部C1類型、C2類型の運用に向けて、部会や教育課程検討委員会、教務部会等で情報共有や協議を行う。</li> <li>2 システムによる個別の指導計画の「指導内容の選択」（学習指導要領の各教科の目標の選択）において、選択した内容が児童生徒の実態、目標に合っているか再確認する。</li> <li>3 職員用タブレットが有効活用できるように、授業での活用方法、おすすめのアプリ等の紹介をする。</li> </ol>

学校関係者評価（令和8年2月9日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムが小中学校からの転入時にも活用できるようになり、転出入時の引継ぎがスムーズになるとよい。</li> <li>・児童生徒の実態から難しい面もあるが、学校グラウンドを活用した学習ができるとよい。</li> </ul>

【学習支援部】

<p>評価する領域・分野</p>	<p>「研修」「授業力向上」「学習支援」「情報教育」</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌やコア・ティーチャーが研修計画にそって実施し、肢体不自由教育を行う学校の教師としての基礎知識の定着や専門性の向上など経験年数に応じた効果的な研修を行っている。</li> <li>・授業公開（授業記録も含む）をもとにしたグループ内及び他グループとの学び合いを通して、根拠のある授業につながるように推進している。</li> <li>・外部専門家による授業支援、センターリハビリ参観、コア巡回において、複数から助言を得る機会があり、授業支援後、担任が助言内容や改善策をまとめ、個に応じたよりきめ細やかな指導を行うために、より活用し共有しやすい方法について検討する必要がある。</li> </ul>
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教職員が「やりたい」「学びたい」と主体的に参加できる研修を計画・実施する。</li> <li>2 児童生徒理解の見方や考え方を深め、「授業づくりの日」における学び合いの仕方を提示し、児童生徒一人一人の実態や障がいに応じた根拠ある授業づくりや授業改善を推進する。</li> <li>3 担任が外部専門家の助言を指導に活かすために、学級担任が助言をどのように理解し選択し、授業の中に取り込んでいくのかを考えられるようにする。</li> </ol>
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校内研修計画 各分掌やコア・ティーチャーとの連携</li> <li>2 授業力向上委員会 授業づくりの日</li> <li>3 外部専門家やセンター療法士、コア・ティーチャーとの連携</li> </ol>
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各分掌やコア・ティーチャーと連携を図りながら、研修方法の工夫をするなど、限られた時間内で、効果的な学び合いができる研修会を計画・実施する。</li> <li>2 各学習グループの授業（授業記録を含む）を参観（視聴）し、児童生徒の学ぶ姿を通して、各部で児童生徒理解の見方や考え方を共有し深め合う場を設定し、根拠ある授業を主体的に築きあげていくことを目指す。</li> <li>3 「記録・相談票」の活用方法について具体的に提示することで、担任が様々な専門家等の助言を整理し、児童生徒の実態把握や授業内容の改善策の検討に役立てることができるようにする。</li> </ol>
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 肢体不自由教育を行う教師としての基礎知識の定着、専門性の向上に効果的な研修の体制を整えることができたか。</li> <li>2 児童生徒の願う姿を明らかにし、各部各重点を意識して授業づくりをするなど、それぞれが実践していることを交流する時間を設定することで、コミュニケーションを増やす。更に、児童生徒の学ぶ姿を通して、児童生徒理解の見方や考え方を深め合う雰囲気となるような「授業づくりの日」を設定することができたか。</li> <li>3 外部専門家からの専門的な助言により、担任が個別課題や授業目標等を解決する上で大切な児童生徒の姿勢や身体の動き等について「記録・相談表」をもとに見直しをし、具体的な手だてや教材・教具の開発の工夫等、授業内容を改善することにつながることができたか。</li> </ol>

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コア・ティーチャーと連携して職員研修を進めることができた。また、経験年数によるグルーピングにより、各自に適した研修を計画することができた。</li> <li>・各学級で授業記録を行い、「授業づくりの日」に事例検討を行うことができた。事例検討に該当しなかった授業実践も、授業記録を共有することで授業内容を公開し、お互い学び合う機会を設けることができた。</li> <li>・外部専門家と連携して校内支援を充実することができた。また、複数の授業支援をまとめ、引き継ぎに使えるよう「記録・相談票」の活用を呼び掛けた。</li> </ul>
評価の視点	評価
1 各分掌やコア・ティーチャーと連携を図りながら、研修を進めることができたか。また、限られた時間内に効果的な学び合いができる計画を立て、実施できたか。 2 各学習グループの授業（授業記録を含む）を参観し、児童生徒の実態把握や、授業改善につながる場を設定することができたか。 3 様々な専門家等の助言を整理し、児童生徒の実態把握や授業内容の改善策の検討に役立てることができるよう「記録・相談票」作成を呼び掛けたり、活用方法について具体的に例示したりしたか。	A B C D A B C D A B C D
成果・課題	総合評価
1 ○コア・ティーチャー会を通じて研修の運営を行うことができた。 ○学校研修全体を前年度の計画の通り実施することができた。 ▲コア・ティーチャーの負担が増えているので、学校全体としてコア・ティーチャーへの業務軽減できるよう工夫する必要がある。 ▲外部講師の日程調整の関係で「授業づくりの日」実施日の変更が多かった。 2 ○事例検討会において、複数の教師の目で児童生徒の実態把握や、教師の支援方法、教材・教具の活用方法等、授業改善のための話し合いの機会を持つことができた。 ○事例検討会以外の事例について「授業記録」をサーバー上に記録することで、指導グループ内の情報共有や、コア・ティーチャーの支援等に活用することができた。 ▲指導案の作成について、具体的に例示することができなかった。 3 ○外部専門家の授業支援の調整を滞りなく行うことができた。 ○複数の授業支援を「記録・相談票」にまとめるよう呼び掛けることができた。 ▲「記録・相談票」について、次年度への引き継ぎ以外の活用方法以外に具体的な例を明示することができなかった。 (その他) ○学習用タブレット端末等の管理（機器や付属品の整理、個人への振り分け、アプリ管理等）について、職員へ使用上の注意について周知を行ったことで、大きな事故もなく取り扱うことができた。 ○学校管理の教材・教具について、安全点検と管理（収納場所の整理整頓、修繕、廃棄等）を徹底して行うことができた。 ○新しい研修申し込みシステム「全国教員研修プラットフォームPlant」について、マニュアルの提示や利用方法の説明を行うことでスムーズに運用することができた。 ○研修案内について、総合支援部と業務分担（県内特別支援学校主催研修は総合支援部、それ以外は学習支援部）することができた。また、teamsを活用して職員全体に案内することができた。	A B C D
来年度に向けての改善方策案	1 研修実施者だけに負担がかからないよう、学校全体で支え合うような形（研修の準備や企画・運営に参加等）を学習支援部から提案できるようにする。 2 授業改善につながるもの（事例検討や授業記録、指導案等の作成）を「授業づくりの日」に行うよう計画する。 3 複数の授業支援の内容を整理し、その内容を情報共有したり、活用したりできる方法を提案する。

学校関係者評価（令和8年2月9日実施）

意見・要望・評価等	・研修が計画的に実施されていてよい。研修した内容を、職員全体で共有できるよう今後も努力してほしい。
-----------	---

【保健安全部】

評価する領域・分野	保健安全部 「保健管理」「安全管理」 ～安全・安心な学校づくり～
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の健康状態の変化や、長期入院や困難な事例に適切に対応するための情報収集を早めに行い、健康管理に努める。</li> <li>・全校児童生徒の健康管理のため、保護者やセンターとの連携を密に行う必要がある。</li> <li>・医療的ケア児の校外学習等（福祉友愛プール・宿泊学習・修学旅行を含む）を安全に実施できる、きめ細やかな計画を立てる。</li> <li>・児童生徒が安心して学校生活を送るため、学校設備の安全環境や衛生的な校内環境を維持し続ける。</li> <li>・ヒヤリハット事例を提出しやすい環境を整える。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療的ケア児の校内での学習活動や、校外学習及び宿泊学習・修学旅行の計画立案において、担任と看護師が十分に連携を取る。</li> <li>2 職員自身の衛生意識の維持及び衛生的な校内環境の維持を呼び掛ける。</li> <li>3 ヒヤリハット事例の提出を定期的に呼び掛ける。</li> </ol>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保護者やセンターとの引継ぎによる健康状態の把握と情報交換、養護教諭・教員・看護師による健康状態の把握と情報共有、緊急対応研修会・訓練、医療的ケア検討委員会、医療的ケア連絡会、指導医巡回指導、ケース会議、主治医訪問、実施検討会</li> <li>2 使用した教室やトイレの清掃（毎日）、職員作業（月1回）の計画、時期に応じた感染症対策の発信</li> <li>3 ヒヤリハット事例提出の呼び掛け（月1回）、ヒヤリハット事例強化週間の実施</li> </ol>
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 養護教諭の教室巡回や健康観察表を活用し、児童生徒の健康状態を把握し、体調の変化に早めに対応できるようにする。 緊急対応研修会や実技指導研修会等を実施し、医療的ケア対象児童生徒の健康状態や医療的ケア内容について教職員が理解できるようにする。 健康状態に課題が生じた場合に、主治医や学校医、指導医に相談して対応する。 校外学習等の計画段階から看護師が加わり、安心安全な実施につなげる。 実施検討会で指導医を交えて十分に検討を行う。</li> <li>2 効果的な清掃方法を職員に提示し、衛生的な環境の維持を呼び掛ける。職員作業では、普段掃除が行き届かない場所を中心に計画的に分担する。 清掃活動に必要な道具や物品等の点検及び補充を行う。</li> <li>3 ヒヤリハット事例提出の呼び掛け（月1回）やヒヤリハット事例強化週間を実施する。 報告されたヒヤリハット事例は速やかに職員に周知し、同様の事例の防止を促す。 ヒヤリハット事例に気が付いたときにすぐに記入できるように、各教室等に報告用紙を配置する。</li> </ol>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療的ケア児の校内での学習活動や、校外学習等の計画立案において、担任と看護師が十分に連携をとり、安全に実施されたか。</li> <li>2 校内が衛生的に維持されたか。</li> <li>3 ヒヤリハット事例が適切に提出されたか。</li> </ol>

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出された医ケア児該当クラスの週予定をもとに、医療的ケアが必要な場面やタイミングについて担任と看護師が事前に打ち合わせ、当日の医療的ケアを実施した。 坐薬挿入の研修と同時にブコラム練習キットを用いて使用の留意点を周知した。 校外学習における必要書類の記入方法や提出時期を事前に担任に説明した。Teams 及び口頭で期日までの提出を促し、安心安全な校外学習や宿泊学習が実施可能かを実施検討会で検討した。</li> <li>清掃に必要な道具類を準備し、日々の清掃活動に支障が出ないようにした。職員作業では、計画に基づいて各清掃箇所にも人数を配置したが、当日になって人数に過不足となったことがあった。臨機応変に協力体制をとることができた。</li> <li>各教室に報告用紙を配置し、Teams で毎月初めにヒヤリハット事例の提出を呼び掛けた。 10月にヒヤリハット報告強化週間を設け、多くの報告をもとに全校に事例共有を行った。例年よりアクシデント報告数が少なく、安全な学校生活を送ることができた。</li> </ul>												
評価の視点	評価												
<ol style="list-style-type: none"> <li>綿密な健康観察と的確な医療的ケアの実施ができたか。</li> <li>校内を衛生的に維持し、児童生徒の学習環境を整えることができたか。</li> <li>ヒヤリハット事例の提出を定期的呼びかけ、全校職員で危機意識を共有できたか。</li> </ol>	<table border="0"> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	<input checked="" type="checkbox"/> A	B	C	D	<input checked="" type="checkbox"/> A	B	C	D	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D
<input checked="" type="checkbox"/> A	B	C	D										
<input checked="" type="checkbox"/> A	B	C	D										
A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D										
成果・課題	総合評価												
<ol style="list-style-type: none"> <li>提出された週予定で、事前に学級での活動内容や活動場所を知ること、計画的に看護師の配置をすることができた。来年度も週予定の提出を依頼する。 ○校外学習や宿泊学習、修学旅行では、事前の打ち合わせを密に行い、安全に医療的ケアを行うことができた。また、蓄積データを効率的に利用した書類の作成方法や作成スケジュールを提案し、担任の負担軽減を図りたい。</li> <li>○毎日の各教室の清掃や毎月の職員作業を通して校内の様々な場所の清掃を行ったため、衛生状態を維持することができた。</li> <li>○ヒヤリハット報告を受けたらすぐにTeams で注意喚起をしたり、事例別にまとめて発信したりしたことで、安全に対する意識付けを行うことができた。 ▲ヒヤリハット報告強化週間では、多くの報告が集まったが、年間を通しての報告件数は少なめだった。ヒヤリハットに気付く、報告しやすい環境の工夫をしていきたい。</li> </ol>	<table border="0"> <tr> <td>A</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D								
A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D										
来年度に向けての改善方策案	<ol style="list-style-type: none"> <li>医療的ケア児の校内での学習活動や、校外学習及び宿泊学習の計画立案において、担任と看護師が十分に連携を取る。</li> <li>安全点検を丁寧に行うことで危険因子を把握し、学校設備の安全環境を整える。</li> <li>定期的にヒヤリハット事例報告の提出を呼び掛ける。</li> </ol>												

学校関係者評価 (令和8年2月9日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒヤリハットについての取組等、危機管理意識を高くもち、迅速な報告や対応を心掛け、安全・安心な学校生活を守るための努力を続けてほしい。</li> <li>学校、保護者、保健室が連携して、安全に医療的ケアが実施できている。</li> <li>医療的ケア児の泊を伴う活動も安全に実施できておりよい。</li> </ul>
---

【生活支援部】

<p>評価する領域・分野</p>	<p>人権教育推進（MS・MSJ リーダーズ）、希望フェスタ（児童会・生徒会活動） スクールバス運行、防災・防犯等非常時への対応</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員や児童生徒の人権についての知識や態度を高められるように、職員研修会やMS・MSJ リーダーズの活動を工夫して行えると良い。</li> <li>・昨年度までの希望フェスタの企画を継続・発展させ、児童生徒一人一人が本番でより力を発揮できる企画・運営を行えると良い。</li> <li>・スクールバスの安全・安心な運行のために、引き続き、管理校として関係機関との調整や保護者への連絡等を丁寧に行う必要がある。</li> <li>・被災した地域の対応を参考に備蓄品や非常時の対応をより充実させていけると良い。</li> </ul>
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 当校の実態に即した研修会、あいさつ運動、あったかい言葉掛け・あったかい態度運動を行い、職員や児童生徒の人権についての知識や態度を高める。</li> <li>2 児童生徒の体調管理や観客数などを考慮し、児童生徒一人一人が本番でより力を発揮できる企画を計画・実施する。</li> <li>3 安全・安心なスクールバス運行のため、管理校として関係機関との連絡調整や保護者への連絡・説明を丁寧に行う。</li> <li>4 備蓄品の整備や新しいパターンの訓練、研修等を通じて校内および隣接する施設の職員と非常時の対応について共有する。</li> </ol>
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 いじめ防止等対策検討会議、人権研修会、MS・MSJ リーダーズ、各アンケート</li> <li>2 児童会・生徒会、希望フェスタ</li> <li>3 乗務員研修、スクールバス担当者会</li> <li>4 防災対策委員会、総合防災訓練、防災・防犯研修、命を守る訓練</li> </ol>
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 当校の実態に即した人権研修会、定期的なあいさつ運動、職員や保護者も参加するあったかい言葉掛け・あったかい態度運動</li> <li>2 連続登校日5日間での希望フェスタ開催、昨年度のプログラム編成の継続、作業製品販売の対象拡大（全校児童生徒や放課後等デイサービス等）安全に開催規模を拡大するための組織体制・運営</li> <li>3 長良特別支援学校や盲学校、バス会社との密な連絡、保護者への丁寧な説明</li> <li>4 被災地域の備蓄品情報の収集、被災時の対応に関する職員との確認・共有、昼食中を想定した不審者対応訓練</li> </ol>
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 職員・児童生徒の人権教育に関わる基礎的な知識や態度を高めることができたか。</li> <li>2 希望フェスタで児童生徒一人一人が本番で力を発揮できたか。安全に開かれた行事として希望フェスタを開催できたか。</li> <li>3 関係機関や保護者と連携を図り、スクールバスの安全運行ができたか。</li> <li>4 非常時の対応について、校内および隣接する施設の職員と共有できたか。</li> </ol>
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員人権研修では、傾聴について体験的に学ぶことができる研修を行った。日常生活、進路等に不安のある生徒を対象にスクールカウンセラーのカウンセリングを行った。</li> <li>あいさつを通して児童生徒が交流するあいさつ運動や全校の児童生徒が互いの写真を見て認識し共感しあうあったかい言葉かけ運動を行った。</li> <li>・児童生徒会役員を中心に希望フェスタに向けての活動を行うことができ、全学級がステージ発表を行った。</li> <li>・乗車児童生徒の情報や校外学習の日程等を長良特別支援学校、岐阜盲学校と密に連絡を取り合いながら運行を行った。</li> <li>・児童生徒も参加して、ランチルームでの不審者対応訓練を行った。</li> </ul>

評価の視点	評価
1 人権教育推進計画に基づいて、職員・児童生徒の人権教育に関わる基礎的な知識や態度を高めるための研修や活動等を実施できたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
2 児童生徒、職員がステージ発表に向けて、事前の取り組みから集中できる環境を整えられたか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D
3 乗車児童生徒の安全・安心の運行のため、関係機関と連携して行うことができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
4 訓練を通して、緊急時の対応について職員間で共有することができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
成果・課題	総合評価
<p>1 ○人権研修では、体験を通して傾聴について考えることができた。 ○カウンセリングでは、自分の気持ちに向きあうことができ、前向きに登校する励みになった生徒がいた。 ○あいさつ運動では、多くの生徒が参加することができ、児童生徒のあいさつの規範になることができた。 ▲カウンセリングを希望する人が少ないため、スクールカウンセラー活用できてない。</p> <p>2 ○児童生徒会役員が主体となり、開会式、閉会式の準備を進めることができた。 ○各分掌で準備の進め方が定着してきたため、当日まで滞りなく進めることができた。 ○全学級がステージ発表を行ことができ、全児童生徒で発表を参観することができた。</p> <p>3 ○長良特別支援学校と盲学校と連携しながら運行を行うことができた。 ○運転手、添乗員と乗車児童生徒の情報について共有しながら行うことができた。 ▲乗車児童生徒の減少に伴い、運行経路の再検討が必要。</p> <p>4 ○防犯訓練では、昼食時を想定して行い、児童生徒、職員と緊急時の対応について確認することができた。 ▲危機管理マニュアルの記載内容が増えたため、構成を検討し使いやすいようにする必要がある。</p>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<p>1 スクールカウンセラーの活用方法や目的等を児童生徒・保護者・職員に伝え、相談しやすい環境の整備。</p> <p>2 児童生徒がステージ発表に向けて、事前の取り組みから集中できる環境の整備。</p> <p>3 運行経路の再検討し、児童生徒の乗車時間や待機時間への負担を減らす。</p> <p>4 危機管理マニュアルの構成を整理し、使用しやすいマニュアル作成を行う。</p>

学校関係者評価 (令和8年2月9日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を守る訓練など、防災・防犯に対する取組を通して、危機管理意識を高くもち、迅速な報告や対応を心掛けるなど、安全・安心な学校生活を守るための努力を続けてほしい。</li> <li>・外部講師を招いて訓練ができているのがよい。今後も継続してほしい。</li> <li>・福祉避難所として、必要物資を確保できるよう今後も岐阜市に働きかけてほしい。</li> </ul>
--

【総合支援部】

評価する領域・分野	総合支援部 「校内支援」「センター的機能の充実事業」「キャリア教育」	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、本人・保護者、担任のニーズや支援方法を明確にし、担当者から担任等へ積極的に働き掛ける必要がある。</li> <li>肢体不自由のある児童生徒が地元の小・中学校に通うケースが増えた。肢体不自由のある児童生徒が在籍する学校と定期的に電話等で連絡をとり、必要に応じて支援につなげる必要がある。</li> <li>卒業後を見据えた系統的な指導を行うために、職員のキャリア教育についての理解がより深まるよう、研修等を行う必要がある。</li> </ul>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ニーズを明確にし、支援が充実するような支援体制の構築</li> <li>2 センター的機能に関する理解と啓発活動、及び関係諸機関との連携</li> <li>3 キャリア教育についての理解・啓発活動</li> </ol>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 分掌会、支援委員会</li> <li>2 当校のコア・ティーチャー、岐阜市教育支援委員、各教育事務所・学校・施設、外部研修会や会議等</li> <li>3 総合支援部メンバー、職員、保護者</li> </ol>	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校内コーディネーターが中心となり、本人・保護者、担任のニーズを把握する。本人・保護者、担任のニーズを分掌会や支援委員会等で情報共有し、具体的な支援につなげる。</li> <li>2 岐阜市内の肢体に障がいや有する児童生徒が在籍する園・学校を中心に、リーフレットや研修の案内等を配付し、当校のセンター的機能や相談窓口について案内する。 関係諸機関等と定期的に電話等で連絡をとり、相談や啓発活動を行う。</li> <li>3 職員がキャリア教育の視点を意識して、児童生徒の目標を設定したり、保護者に子どもの数年先の姿を意識するよう働き掛けたりできるよう、研修を行ったり、担当者から担任に働き掛けたりする。 「キャリア教育だより」発行や掲示等で情報を発信し、保護者・職員のキャリア教育についての理解・啓発を図る。</li> </ol>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本人・保護者、担任のニーズを把握し、必要に応じて支援につなげることができたか。</li> <li>2 リーフレットや研修の案内等を配付することにより、関係機関に対して当校のセンター的機能や相談窓口について啓発を行うことができたか。</li> <li>3 研修の場を設けたり、「キャリア教育だより」発行等を通して、職員・保護者のキャリア教育への理解を深めることができたか。</li> </ol>	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人・保護者からのニーズを把握し、分掌会で支援方法を検討した。支援委員会で、情報共有や支援方法等について検討・確認した。</li> <li>研修会や会議への参加の際に、スライドによる当校の紹介や「肢体不自由児のための相談支援センター」の業務の説明、リーフレットの配付を行った。各教育事務所を通じて肢体不自由のある児童生徒が在籍する学校に公開講座の案内を配布した。</li> <li>「キャリア教育だより」の各部の活動について、キャリア教育の視点を意識したねらいや成長の様子を掲載した。 個別懇談期間中に、キャリア実習報告会の模様を編集して、玄関モニターで流した。</li> </ul>	
評価の視点		評価
1 本人・保護者、担任のニーズを把握し、必要に応じて支援につなげることができたか。		A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
2 リーフレットや研修の案内等を配付することにより、関係機関に対して当校のセンター的機能や相談窓口について啓発を行うことができたか。		A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
3 研修の場を設けたり、「キャリア教育だより」発行等を通して、職員・保護者のキャリア教育への理解を深めることができたか。		A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>

成果・課題	総合評価
<p>1 ○個別懇談の記録、管理職や担任からの情報提供により、進路を含めた本人・保護者のニーズを把握し、必要に応じて支援につなげることができた。</p> <p>2 ○研修会や会議への参加の際に、スライドによる当校の紹介や「肢体不自由児のための相談支援センター」の業務の説明、リーフレットの配付を行い、当校のセンター的機能や相談窓口について啓発を図った。</p> <p>○公開講座に、肢体不自由のある児童生徒の担任等の参加が多数あり、肢体不自由に対する理解を深めたり、進路に関する情報を発信したりすることができた。</p> <p>3 ○「キャリア教育だより」の発行の際、職員に活動の様子の記事を依頼した。活動のねらいや成長の様子をキャリア教育の視点を意識して考えるよう促すことができた。</p> <p>▲教育課程 D の児童生徒にとってのキャリア教育について、キャリアパスポートの様式の変更を含め、研修等を通して職員の理解を促す必要がある。</p> <p>▲進路情報の提供や進路に関する行事への参加を促し、小中学部の児童生徒、保護者、担任等の進路に対する意識を高める必要がある。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ニーズを明確にし、支援が充実するような支援体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内コーディネーターと管理職・担任が連携し、本人・保護者、担任のニーズを把握し、必要に応じて支援につなげる。</li> </ul> </li> <li>2 センター的機能に関する理解と啓発活動、及び関係諸機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の小中学校に通う肢体不自由のある児童生徒の現状を把握する。当校のセンター的機能や相談窓口について案内し、必要に応じて支援につなげる。</li> </ul> </li> <li>3 キャリア教育についての理解・啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等により、職員のキャリア教育に対する理解を深める。</li> <li>・保護者に対する情報発信の仕方を工夫し、進路意識を高める。</li> </ul> </li> </ol>

学校関係者評価 (令和8年2月9日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別の支援計画」が関係機関との連携に役立っている。</li> <li>・医療的ケアのある児童生徒の登校支援について、現状を知ることができてよかった。</li> </ul>
---

【総合支援部】

評価する領域・分野	「保護者、地域との連携」「文化活動の推進」	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A活動の希望制へ向けて組織や活動内容を見直していく。</li> <li>・ 校外作品展への参加の呼びかけ、校内作品展を計画的に実施する。</li> </ul>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保護者が P T A活動を主体的に進めていけるよう支援し、活動についての情報発信と共有を図る。特に保護者間の交流をねらう。</li> <li>2 積極的な校外作品展への参加の呼びかけるとともに、校内作品展の充実を図り、情報発信をする。</li> </ol>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 P T A活動を支援するうえで、渉外・広報部職員間の情報共有と協力体制をとる。また、P T A行事や会議を進める上で必要な管理職や他職員との連携をとる。</li> <li>2 渉外・広報部担当職員と学級担任との情報共有と協力体制をとる。</li> </ol>	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 P T A活動に関する会議や相談、準備などを保護者と連携して進め、主に文書作成や連絡調整の面で支援する。</li> <li>2 校外作品展の参加について計画的に校内に伝える。また、校内作品展の内容や計画を早期に提案し、授業で取り組む体制を支援する。</li> </ol>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保護者が P T A活動を主体的に進めていけるよう支援し、情報発信できたか。また、保護者間の交流を図ることができたか。</li> <li>2 校外作品展の参加や校内作品展を計画的実施ができ、情報発信できたか。</li> </ol>	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A会長・執行部役員と連携し、P T A年間行事・活動を計画・実施することができた。</li> <li>・ 今年度初の取り組みである「キキボウ体験・交流会」を実施した。</li> <li>・ 校外・校内の作品展に計画的に実施できた。特に校外の「第 4 回あーと展覧会」にて、個人受賞と学校として最多応募賞を受賞した。</li> </ul>	
評価の視点		評価
1 保護者が P T A活動を主体的に進めていけるよう支援できたか。		<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
2 校外の作品展に出展する機会を設け、児童生徒の作品を情報発信できたか。		<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
成果・課題		総合評価
<p>1〇研修と交流の内容を目的とした「キキボウ体験・交流会」を初めて実施した。事業所を招き、保護者 31 名、書類作成や実務の手伝いを行った。交流会は、当校保護者以外（内訳、他校保護者・職員 10 名、事業所 36 社 69 名、希望が丘こども医療センター12名）を含め、合計 122 名の参加があった。</p> <p>▲来年度も実施する場合は、学校全体でのバックアップが検討する必要がある。</p> <p>▲ P T A活動（バルマーク、会報・交流）の計画・実施する際に、役員内での担当者が決まらず、学校職員との連絡をとることが困難だった。</p> <p>2〇文化活動は全員で分担し行うことにより、業務の効率化を図った。</p> <p>▲展示会の出展の時期が重なり書類作成が困難なので、文化活動の担当者を増やす。</p> <p>○昨年に続き「アート展覧会」に出展し、最多賞を受賞した。出展方法をメールで一括応募することで、職員の負担を軽減できた。</p> <p>▲地域交流イベントの展示依頼が増え、早田地域の展示が重複するので、夏の早田公民館の展示は行わない。</p>		<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
来年度に向けての改善方策案	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度初めて実施した「キキボウ体験・交流会」について、反省を踏まえ学校全体で支援する。</li> <li>2 作品展の出展、搬入、搬出などの負担の軽減を図る。</li> </ol>	

学校関係者評価（令和 8 年 2 月 9 日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「キキボウ体験・交流会」を実施できよかった。児童生徒の将来を見通した各校の取組や働き掛けの成果が全県下で広く共有されるとよい。積極的に情報発信をしてほしい。</li> </ul>
---

【小学部】

評価する領域・分野	「小学部」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和7年度初めより1年生、5年生に教育課程A学級を開設する。また、転出入に伴う学級及び職員配置の変更も起こり得るため、教科指導を進めるための協力体制や柔軟な対応を必要とする。</li> <li>・ 令和7年度より校務支援システムの本格的な運用が開始され、知的代替や重度重複障がい学級においても、教科・領域を合わせた指導に含まれる各教科のねらいを明らかにした指導計画や評価がより一層求められる。</li> <li>・ 令和6年度は学校生活の中で転倒によるけがや服薬忘れ、持ち物の渡し忘れなどのアクシデントが多く報告された。令和7年度は、看護師同行による宿泊行事や、気管切開のある児童の友愛プール活動を計画するにあたり、保護者や関係機関との相談や連携を基にしたより慎重で詳細な計画立案が必要である。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 一人一人の実態やニーズに応じた学習環境や指導体制づくり</li> <li>2 教科指導の観点から、指導段階や個別目標を明確にした授業づくり</li> <li>3 安全・安心な学習活動を進めるための相談や連携、組織的対応</li> </ol>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学年会、チーフ会、部会、主事会等</li> <li>2 学年会、活動グループ、部会、教務部や学習支援部との連携</li> <li>3 保護者、担任、医療的ケア検討委員会等</li> </ol>
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学年や学習グループにおいて、学習指導や生活指導を進める上で生じた不具合や問題点を部内で共有し、チーフ会や部会で都度検討しながら改善に向けた柔軟な調整や対策を講じる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 転出予定の生徒については、主事を窓口で転出先校との連携を図り、学習内容や進度の調整、支援の引継ぎがしやすいよう情報共有をする。</li> </ul> </li> <li>2 校務支援システムを活用して整理した各教科における個別の指導段階と目標を指導グループ内で検討し、共通理解を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年会や授業づくりの日を活用し、指導形態や単元ごとに教科学習の中心的なねらいや指導場面、評価の観点について協議し、グループごとの実践や支援の工夫等の情報を部内で共有する。</li> </ul> </li> <li>3 前年度からの引継ぎや保護者からの聞き取りをもとに、起こりやすいヒヤリハットやアクシデントについてグループや部内で情報共有し、予防や必要な対応について十分に検討した上で組織的に対応する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校外学習や友愛プール活動、宿泊学習、修学旅行等の安全な実施に向けて、保護者や看護師、養護教諭、必要に応じて専門家とも連携しながら、計画立案や事前打合せを丁寧かつ計画的に進める。</li> </ul> </li> </ol>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個の実態やニーズに応じた学習環境や指導体制を調整できたか</li> <li>2 教科の指導段階や個別目標を踏まえた授業づくりや支援ができたか</li> <li>3 教育活動中の重大なアクシデントを未然に防ぐことができたか。</li> </ol>

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・度重なる転出入（転入5件、転出4件）や年度途中での通常学級開設に対応し、指導体制の調整を都度行った。</li> <li>・教務部からの働き掛けにより、身体や認知面における個別課題を共通様式に紙面化した。</li> <li>・個別の指導計画等をもとに、児童の実態やつきたい力、指導内容や方途等について、学年会や授業づくりの日のみでなく日常的にグループ内で意見交流した。</li> <li>・児童の学習の様子を日々の連絡帳、個別懇談時、学級通信、教室前廊下掲示などで積極的に伝えた。</li> </ul>
評価の視点	評 価
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童の認知面、身体面における特性や発達段階、転入児の前籍校からの引継ぎ内容等を踏まえながら学習環境や指導体制を整え、安全な生活や学びの連続性を守ることができたか。</li> <li>2 それぞれの指導場面で、教科のねらいに沿ってつきたい力を意識し、意図した働き掛けや学習課題設定ができたか。</li> <li>3 児童の健康状態を適切に捉え、気になる症状や異変に早く気付いて対応し、学校管理下における事故防止に努め、校内外の活動を安全に実施できたか。</li> </ol>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
成果・課題	総合評価
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ○身体面、認知面の個別目標や学習課題、支援方法や評価の観点を共通様式に整理し、指導グループ以外の職員が指導に当たる場合の引継ぎや参考資料としての活用を始めた。 ○転入児の学習及び生活支援について、保護者や前籍校担任、隣センターの病棟や入所児支援係と連携しながら都度体制を整え、滞りなく学習指導を進めた。 ●指導体制を調整する中で、通常学級の教科担任や低学年担当者の変更が幾度も起こり、連続性のある安定した学習指導が難しい面があった。 ●学級増や部職員の勤務状況により、特に食事支援における人員不足への対応として、一人の職員が複数の児童の食事支援に当たるケースが相次ぎ、物理的・心理的な負担があった。</li> <li>2 ○校務支援システムで各教科の目標や指導内容を参照しながら指導計画を作成する過程で、日々の実践と各教科との関係を確認し、学習指導要領に立ち返る機会が増えた。 ●児童によっては遅刻やリハビリテーションなどで授業や教科に大きな偏りが起こり、指導や評価がしにくいケースがあった。</li> <li>3 ○保護者や職員間、保健室や隣センター関係者との連携の中で、児童の健康状態や気になることについて報連相を密にし、体調変化や異変に早く気付いて対応した。 ○丁寧な活動計画や準備のもと、大きなアクシデントなく校内外の活動を実施した。 ●児童の身体の特徴や支援の配慮事項を踏まえ、指導グループ以外の職員がより安全な身体介助ができるよう引継ぎや情報共有ができる仕組みが必要である。</li> </ol>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 年度途中の転出入については、教育相談や前籍校、隣センター病棟との引継ぎを丁寧に行い、安全な学校生活や学習の充実を図る。</li> <li>2 部内で安全な指導体制が組みにくい場合は、主事会等で他部との協力について相談し、対策や調整について検討する。</li> <li>3 児童一人一人の学習課題や配慮事項について、指導グループ以外の職員も十分に理解した上で学習指導やリスクケアができるよう、情報共有や引継ぎの体制を整える。</li> <li>4 アクシデント防止に努め、特に医療依存度が高く体調管理が難しい児童の校外活動や泊を伴う行事を安全に実施する。</li> </ol>

学校関係者評価（令和8年2月9日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教科・領域を合わせた指導に含まれる各教科のねらい」を明らかにして支援されているのはとても重要である。今後も努力してほしい。</li> <li>・希望が丘こども医療福祉センターに関わった急な転入により人員不足となり、教員の負担が増えているの</li> </ul>
--

は課題である。本年度、他学部と協力し、学校全体で柔軟な体制を築けたことはよいが、県教育委員会への要望も引き続きしていく必要がある。

【中学部】

評価する領域・分野	「中学部」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度は生徒15名の在籍でスタートし、生徒数及び職員数が前年度より減少した。また、知的代替学級の生徒も含め、重症心身障がいの生徒のみの比較的小さい集団である。年度途中の転出入が5人あり、その都度指導体制の見直しが必要であった。</li> <li>・前年度学校評価アンケートより、進路指導やICT関係の項目については高評価が得られたが、個に応じた学習目標や教材・教具の活用に関しては課題が残った。また、部内の自己反省より、中学部段階の生活年齢に合った学びと支援について改善や工夫の余地があるとの反省を得た。</li> <li>・日常的な医療的ケアや体調管理に配慮を要する生徒が多く、特に校外活動やプール活動、泊を伴う行事に向けた計画や準備は詳細且つ慎重に進める必要がある。</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒一人一人の学習課題を明確にした指導体制と授業づくり</li> <li>2 生活年齢を踏まえた生活・学習支援の充実</li> <li>3 安全・安心な学びを守るための組織的な体制と専門家との連携</li> </ol>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学年会、授業づくりの日等、個別の指導計画や授業案を軸にした話し合いの場と情報共有</li> <li>2 部会や学年会、また他部での学びや系統性を確認するための教務部及び学習支援部との連携</li> <li>3 保護者や看護師との相談や情報共有、主事会での検討や確認</li> </ol>
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ・担任や指導グループ以外の職員にも、生徒一人一人の個別課題の目標や手立て、評価の観点等が明確になるよう課題シートにまとめ、「見える化」する。また、曜日や時間ごとの指導担当をある程度決めることで、一貫した指導や評価を計画的かつ継続的に行えるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会や授業づくりの日などを活用し、学習指導の進捗状況や生徒の変化についての情報共有、及び課題や具体的な改善点を明らかにするための話し合いを十分に行う。</li> </ul> </li> <li>2 ・縦割りでの指導形態の良さをいかし、他学年の生徒や職員とのかかわりを意識した活動グループや支援体制を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部での生活を見据え、「キャリア教育」を進路指導に限定するのではなく、日常生活全般においてどのような力を育てたいかを部内で検討する場を設け、意図した支援や働き掛けをするための観点を整理する。</li> </ul> </li> <li>3 ・身体介助、摂食や水分摂取、排痰への支援等、日常的に行う支援をより安全に実施するための確認や検証、専門家への相談、情報共有を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・校外活動やプール活動、宿泊学習や修学旅行に向けて、保護者や看護師、養護教諭、必要に応じて専門家とも連携しながら綿密な計画を立て、安全に実施する。</li> </ul> </li> </ol>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全ての指導者が学習のねらいや必要な支援についての共通認識をもって指導にあたるよう仕組みや体制を整えられたか。</li> <li>2 中学部段階の生活年齢に合った題材選びや働き掛け、また、支援者や生活経験を広げるための取組みを、キャリア支援の視点から見直し改善できたか。</li> <li>3 日常的に行う支援や校外学習等について、より安全に実施するための確認や検証、専門家との連携や情報共有を組織的に進められたか。</li> </ol>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別課題をシートにまとめたことで、自分自身も検討や改善のきっかけとなった。また、シートがあったことで、普段とは違う教員が授業に入る際、スムーズに活動内容の依頼ができた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練参観等を参考に、課題シートを定期的に変更した。</li> <li>・縦割りの活動を通して他学年の生徒や職員とかかわる機会がもつことができた。</li> <li>・音楽や題材など生活年齢に合ったものが使うことができた。</li> <li>・分からないことや心配に思うことは、学級の教員間だけでなく専門家や専門的な知識をもった教員に相談しながら実践にあたることができた。</li> <li>・無理をせず協力して介助するよう声を掛けたり依頼したりできる雰囲気があり、安全に行うことができた。</li> </ul>
評価の視点	評 価
1 生徒の課題と支援方法について根拠をもって設定し、取組状況を保護者や校内外関係者にわかりやすく発信することができたか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
2 高等学校・高等部への進学や、将来の社会生活につなげていくためのキャリア教育を推進することができたか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
3 生徒が心身ともに安全・安心な学校生活を過ごすことができるように、組織的に対応することができたか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
成果・課題	総合評価
1 ○個別課題については、何を目的にして、どのようなことをするのかを課題シートを作成して示すことで、どの教員が入っても共通した指導をすることができた。 ▲一方で、学年会や授業づくりの日等の定例の会議では、個々の生徒の学習の状況は全てを話しきれないという指摘もあった。 2 ○他の学年の教員とも関わる機会が多くあり、生徒の発達にとってはよかった。 ▲縦割りグループでの学習にしても、結局担当する学年の生徒を見ていることもあり、授業の仕組み方について課題がある。 3 ○部内のさまざまな職員と摂食や水分摂取を行う状態を普段から作ったことで担任がいない状況でも安全に行うことができた。 ▲水分摂取や排痰、血糖値管理など健康状態を見ながらも学習活動を行うバランスが難しい。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
来年度に向けての改善方策案	1 学習課題の明確化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年やグループを超えて支援にあたる職員も含め、学習のねらいや必要な支援についての共通認識をもって指導にあたるよう仕組みや体制を整え、日常的に情報交換、情報共有ができるようにする。</li> </ul> 2 生活年齢を踏まえた生活／学習支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部段階の生活年齢を踏まえた題材選びや働き掛け、また、支援者や生活経験を広げるための取組や体制について、キャリア支援の視点から見直し、系統性をもった授業づくりや支援に生かす。</li> <li>・学習者評価、授業者評価の視点を整理し、授業改善に努める。</li> </ul> 3 安全・安心な学びを守る組織的な体制と対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体介助、摂食や水分摂取等、日常的に行う支援をより安全に実施するための確認や検証、専門家への相談、情報共有を行う。</li> <li>・校外活動や行事等における緊急対応について、生徒の健康状況を踏まえて情報共有を密にし、安全に実施する。</li> </ul>

学校関係者評価（令和8年2月9日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部において、縦割りグループの学習支援や食事介助などを通して、担任以外の教職員とのかかわりを広げ、理解者や支援者を増やす取組は効果的でよい。</li> <li>・小学部と同様、隣接する希望が丘こども医療福祉センターとの関係で転出入が多く生じるが、今後も関係機関との連携や協力体制を築き、柔軟に対応してほしい。</li> </ul>

【高等部】

評価する領域・分野	「高等部」												
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部集会など、生徒一人一人が活躍できる場の設定を継続して行う。</li> <li>・目標の説明や情報提供の不足をアンケート結果から指摘されていることから、保護者や本人のニーズを十分に聞き取り、本人の願いと実態差を考慮しつつも適切な進路情報を提供しながら支援を進める。また、個別の移行支援計画やキャリア・パスポートを日頃の学習にも活用し、卒業後に必要な力を身に付けられるよう支援する。</li> </ul>												
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう、個々の実態と課題の把握に努め、生徒一人一人の豊かな心を育むための支援を行う。</li> <li>2 学びに向かう姿勢を高め、自ら考えたり、自己の思いを周りの人々に伝えたりする力を育てるための支援を行う。</li> <li>3 キャリア教育を通して自己の将来を考える機会をもち、自立や社会参加に向けた支援を行う。</li> </ol>												
重点目標を達成するための校内組織体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 主任やチーフを中心として、学年会や類型会を定期的に行い、教員間で積極的に情報共有を行う。高等部全体での情報共有ができるような場の設定や方法の工夫を行う。</li> <li>2 生徒の実態や課題に応じた効果的なグループ編成や指導体制を確立する。</li> <li>3 互いに授業を見合うなど、学び合う環境を整え、教育力の向上に努める。</li> <li>4 キャリア教育の充実</li> </ol>												
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 職員間で情報共有を密に行い、効果的な教育実践を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態や支援方法や安全面における引継ぎ事項を教員間で定期的に共有することで、安全かつ効果的な教育を実践していく。</li> <li>・他類型の教員とも情報共有ができるよう、情報交換の場の設定やTeams等の活用を通して把握できるようにする。</li> <li>・教員間で授業のねらいや実践内容、方法等について十分に検討、実践し、振り返る。振り返った内容を基にして次への実践へとつなげていく。</li> <li>・身体的な支援を行う場合、身体が大きい生徒もおり、生徒が安全に学校生活を送れるように複数人で支援を行う。</li> <li>・部集会を定期的に行うことで、集団での役割や学びに向かう力等、生きていく上で必要となる自主性、社会性を育てていく。</li> </ul> </li> <li>2 キャリア教育の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア・パスポートを年間計画の中に位置付け、定期的に活用することで自己の進路について意識できる環境設定を行う。</li> <li>・本人や保護者のニーズを丁寧に聞き取り、ニーズに合った実習先等の進路情報を提供して、学校と保護者が協力して進路実現を目指す。</li> </ul> </li> </ol>												
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 安心安全な学校生活を保障し、個々の実態と課題の把握に努め、豊かな心を育む支援ができたか。</li> <li>2 学びに向かう姿勢を高め、自ら考え、個々の方法で自己の思いを周りの人々に伝える力を向上させる支援ができたか。</li> <li>3 キャリア教育を通して、自己の将来について考える機会をもち、社会参加に向けた力を育むための支援を行うことができたか。</li> </ol>												
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒の実態や健康状態、生活の様子等を複数の教員で情報共有し、支援方法を共通理解した上で支援した。</li> <li>・体験的な活動を通して、卒業後に必要な力を育む活動を仕組んだり、仲間と関わる場面を意図的に設定したりした。</li> <li>・就業体験を踏まえた上で、キャリア実習報告会やキャリア・パスポートを活用することで、自身の進路について自ら考える機会を設けた。</li> <li>・日々の会話や進路懇談において生徒本人や保護者の願いを丁寧に聞いた上で、進路担当と方針を相談し、進路学習を進めることができた。</li> </ul>												
評価の視点	評価												
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個々の実態と課題の把握に努め、豊かな心を育むことにつなげることができたか。</li> <li>2 生徒が自己の意思をかめつる人々に伝える力を向上させることができたか。</li> <li>3 キャリア教育を通して、生徒の自立に向けた支援ができたか。</li> </ol>	<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>	C	D	A	<input checked="" type="checkbox"/>	C	D
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
A	<input checked="" type="checkbox"/>	C	D										
A	<input checked="" type="checkbox"/>	C	D										

成果・課題	総合評価
<p>1○部朝礼や部会、類型会、日常会話においても生徒の情報共有を確認を行い、心身の状態を把握しながら、安全・安心に学校生活を送れるように努めることができた。</p> <p>▲異なる教育課程（以下類型）の教員が生徒と関わる機会が多々あり、支援の方法や目標等を詳細まで情報共有することが難しかったため、より一層の共有方法や時間設定の工夫を行う。</p> <p>▲類型の教員だけではトイレ介助等に人手が足りないときがあり、他の類型から協力を得ることもあったため男女比を考えた職員配置を検討する。</p> <p>2○B類型では部集会を通じて、仲間のことを知ろうとする姿がみられたり、ICT機器の利用方法を学び、学習やコミュニケーションの補助として活用することができるよう支援することができた。</p> <p>C類型では各生徒の得意分野を生かしながら、行事等への取り組みに繋げ、目的意識をもって活動することができるよう仕組むことができた。</p> <p>D類型ではかわわる教師間で、生徒の実態や支援方法を共通理解して、生徒の表情や視線の動きなどの気づきを共有することで、有効な言葉掛けや働き掛けにつながり、生徒の表出を増やすことができた。</p> <p>○全類型を通して体験的な活動を多く取り入れ、課題を解決する能力や他者との上手なかわり方など、社会で必要な力を育て活動を敢えて仕組み、生活に即した活動を行うことができた。</p> <p>○部集会やボッチャ大会等を年間通してグループ分けを生かした取り組みをしたことで、他類型の生徒とのかわりや仲間意識を育み、卒業後に必要な力を身に付けることができた。</p> <p>○交流活動は有意義との意見が多いため次年度継続する。</p> <p>○修学旅行は次年度、日程変更（2泊3日から1泊2日）して実施するが、引き続き、修学旅行実施の有無や代替案、実施日程の変更等を学校全体で検討していく。</p> <p>3○キャリア・パスポートを自分の進路と関連付けて振り返りをしたりする等、使用できている</p> <p>▲キャリア・パスポートがうまく活用できないとの意見があるため、進路担当を中心にキャリア・パスポートの意義を、再度、学部全体で確認し、相談しながら類型ごとに活用しやすいものに改善していく。</p> <p>▲生徒本人・保護者と学校との進路に対する意見の相違が窺いみられるため、保護者の願いや生徒本人の願いを聞き、実態に応じた丁寧な説明及び希望進路に即した情報や資料の提供を含めた丁寧な進路支援を行う体制作りが必要である。</p> <p>▲生徒本人・保護者の進路意識が高等部に入學してから低い方がみえるため、小学部段階からのキャリア教育の仕組みを学校全体で整える必要がある。</p>	A <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</span> C D
来年度に向けての改善方策案	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教員間で情報共有の時間を十分に取り、部朝礼やTeamusを活用し、共通の視点を確認してから支援にあたる。</li> <li>2 個別の支援計画や個別の指導計画を基に授業計画を組み立て、日々の授業を行い、個別の移行支援計画に引き継いでいく流れを再確認する。</li> <li>3 高等部集会や交流活動を継続実施することで、個々の生徒の活躍の場を設けて自己肯定感を高める。また、類型間の交流を図ることで、他者理解を深める取り組みを充実させる。</li> <li>4 生徒や保護者のニーズを丁寧に聞き取り、十分に相談し、合意形成ができた上で卒業後の進路決定までの目標や実習計画を明確にしたキャリアプランニングを行ってから支援にあたることを高等部内で共通理解する。</li> </ol>

### 学校関係者評価（令和8年2月9日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行の行程が2泊から1泊とする大きな変更があるが、参加予定者の実態や体調面への配慮、またそれぞれの家庭状況や物価高の影響による旅行費高騰などを踏まえた検討がされ、保護者にも丁寧な説明のもと、合意形成がなされていてよい。</li> <li>・自己の将来について考える機会を大切に、在学中から福祉や医療を活用したりすることを進めていけるとよい。</li> </ul>
--